

ロンドン 2012 パラリンピック競技大会開催を迎えるにあたって

(今回の選手推薦 (選考) について)

ロンドン 2012 パラリンピック競技大会
選考委員会 委員長 吉村 龍彦

はじめに

今回の日本代表陸上チームは、日本盲人マラソン協会、日本知的障害者陸上競技連盟と当連盟の 3 団体から構成されています。

我が国の人数枠は、個人種目 35 名 (男子 24 名、女子 11 名)、リレー種目 (切断チーム 4×100m、車いすチーム 4×400m) を国際パラリンピック委員会(以下 IPC)より連絡がありました。

代表選手を日本パラリンピック委員会(以下 JPC)へ推薦するにあたり上記 3 団体で人数枠の割り振りを検討し結果として、日本盲人マラソン協会 (男子 3 名)、日本知的障害者陸上競技連盟 (男子 2 名、女子 1 名)、当連盟 (男子 19 名、女子 10 名) 合計 35 名 (男子 24 名、女子 11 名) となり、当連盟からの人数枠男子 19 名、女子 10 名を JPC へ推薦することに決定いたしました。

まず、この人数枠はアジアにおいて中国に次いで 2 番目になる人数枠でありませぬ。このことは、今回日本代表選手になられなかった多くの選手が、A、B 標準をクリアした事が大きな要因である事を忘れてはなりません。

日本代表でロンドンに向かわれる選手の方々におかれましては、今まで応援していただいた方々、また代表になれなかった選手の思いを胸に健闘を期待したいとおもいます。以下、今回の推薦について考えてみたいと思います。

1. 個人選手の推薦について

まず、JPC の日本代表選手団編成方針及び選手選考手順に則って、次いで当連盟の選考基準に従って上位より順に選手選考し JPC へ推薦を行いました。

(詳細については、HP 選手推薦について参照下さい)

- (1)メダル獲得が可能な選手、次いで入賞可能な選手。
- (2)2010 年 12 月 1 日～2012 年 3 月 31 日の期間で指定大会において標準記録を突破した選手。
- (3)IPC 世界ランキング上位の選手。
- (4)A 標準記録突破選手が 3 名以上いる種目に於いて 6 月の日本選手権で上位 3 名までに入った選手 (結果的には車いす種目のみでありました)

以上の基準に於いて今回の推薦選考を行いました。

当連盟は、アテネ大会の推薦に於いて日本仲裁機構にスポーツ仲裁を行われた経緯があります。その反省を踏まえ、選考基準関係についても専門家の意見、

指導を受け入れて北京、ロンドン共に厳粛、公平に選考推薦し、透明化を図って参りました

2. リレー種目について

IPC から下記のとおりリレー種目の連絡がありました。(6/2)

ランキング 8 位以内であること。

競技グループ T42-T46 (切断グループ) 種目 4×100m (ランキング 4 位)

競技グループ T53-T54 (車いすグループ) 種目 4×400m (ランキング 7 位)

北京までの大会に於いてリレー種目に参加したこともありましたが、あくまでも個人種目で選考された選手の中でチームを編成してきた経緯があります。今回も私 (選考委員長) としては北京大会までと同様のチーム編成で臨むと考えていましたが、オリンピックがそうであるようにリレーだけの要員として+αの枠があるのではないかと思い、JPC を通じて至急 IPC に確認していただきました。その結果、+1 名のリレー要員が認められるとの報告を受けました。そこで緊急的な対応としてリレーの権利を返却するまでの期間内でリレー要員+1 名を強化委員会の担当コーチと個人種目に選考された選手とでリレー参加の意思確認、連絡を取って戴きました。

その結果

切断グループはリレー種目に参加するとの連絡を受けましたので急遽リレー要員として 1 名の選手を JPC へ推薦しました。一方、車いすグループについては、個人種目に専念したいとの選手の意向を受けて、残念ながら車いすのリレー種目については出場しないとして IPC へ辞退を申し出ました。

しかし、後日になりますが、どうして権利があるのに返却したのか等のご意見をいただきました。+αのリレー要員に選考されれば、標準記録を突破していれば個人種目にも参加することができるとの指摘もいただきました。

指摘を受け当連盟 HP のロンドンパラリンピック概要のところでは+1 名のリレー要員の件と個人種目に参加できることが書かれており、私としてこのことは見逃してしまいましたことは完全なるミスでありました。

概要を見逃しており、IPC に確認している間に選手等へ確認し、選考をゆだねてしまった結果になってしまったことは選考委員長としてすべきでなかったと反省しております。

教訓として今回車いすリレーの参加権利を IPC に返しましたが、今後は、IPC 公認大会に於いてリレー種目に出場してその権利を得たならばそれを行って行く。行使する意志がないならば最初からエントリーしない。と当連盟として強化委員会また担当コーチと連携を取りはっきりした態度を取る必要があると思います。このことが、選手に混乱を招き、迷惑をかけないことであると思います。

3. 今後の課題

選手、関係者の方々は既にご存じかと思いますが、当連盟を運営している全ての委員会（理事会含む）の関係者がボランティア（無償）精神で活動していただいています。このことは、選考委員会に於いても同様であります。

しかし、誠心誠意、責任感を持って取り組んでいる事は間違いない事実であります。今回の選手選考の一部に不手際があった事実を厳正に受け止め、今後の選考委員会を含め連盟の組織、運営、システムの改革が必要である事は否めません。鮮明感のあるより良い改善案を理事会へ提案し充実した会員のための連盟づくりに努めたいと考えています。

まもなくロンドンパラリンピック競技大会が始まります。日本の代表として日の丸を胸に付けて参加される選手、役員のご健康と大いなるご活躍を祈念しています。

以上